

傍ら

漂うものとともに
僕は漂うだろう

何もののためにも準備はしない

日々の生活から得るものの外
僕は何ものをも持ち合わせない

未来などは無意味なのだ

誰もが皆のために傷つく
未来という永遠につかめぬ亡霊を追って

(僕の棲む世界は
貴方とは違うのです
そこには夢などはなく
単なる気配の移ろいが
しかも、極めてゆるやかな流れがあるだけだ

この天国にも比肩すべき世界を
貴方は信じることができないでしょう
たとえすぐそばにあらうとも
けれど僕が話したいのは
本当はそういったことなのです)

(1997.10.29)